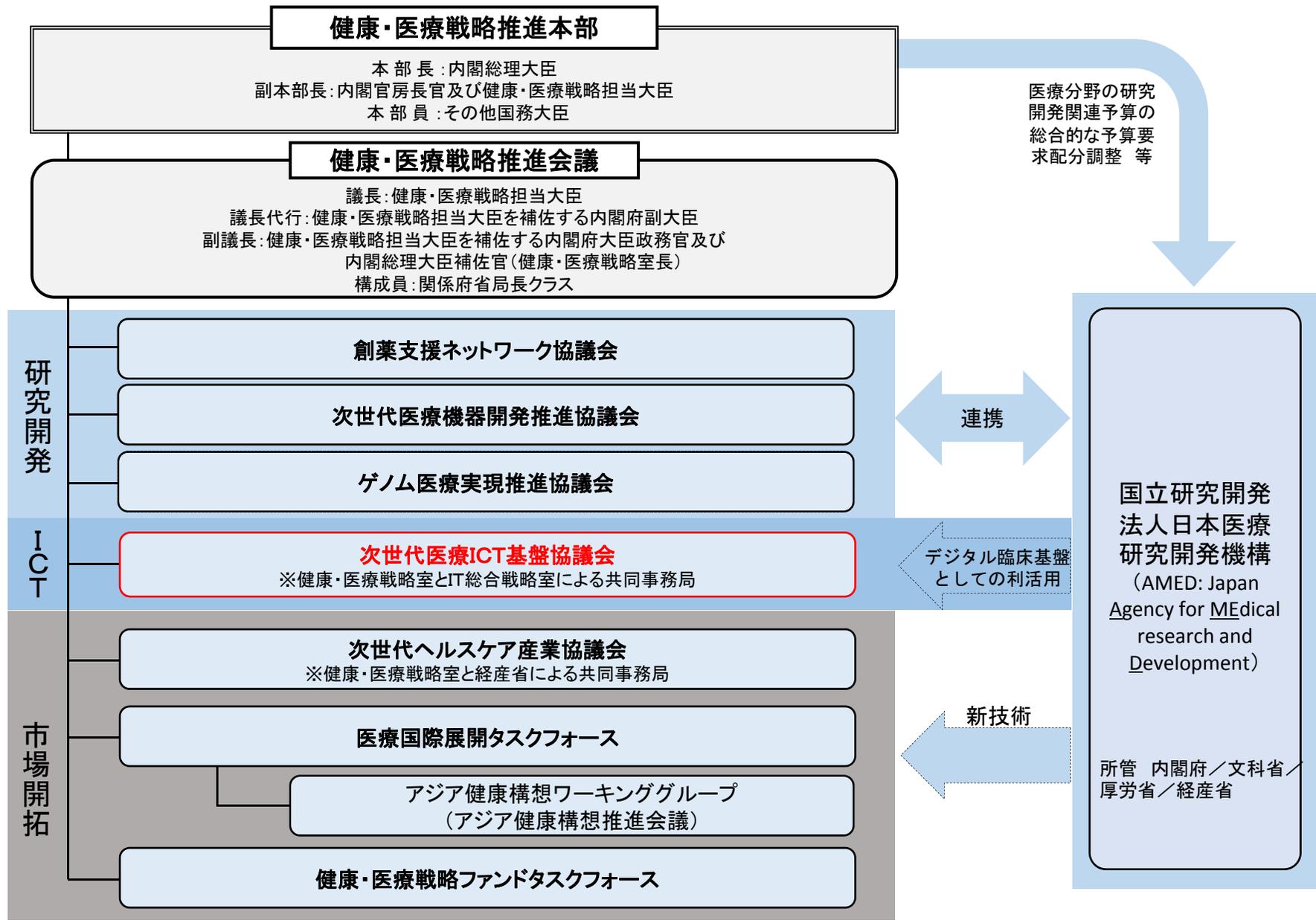


地域における人とくらしの
ワーキンググループ会合
平成29年1月16日

内閣官房 健康・医療戦略室

次世代医療ICT基盤の構築
—次世代医療ICT基盤協議会の議論の状況—

健康・医療戦略関係の推進体制



次世代医療ICT基盤協議会 構成員

- 議長：和泉 洋人 内閣官房健康・医療戦略室長(総理補佐官)
- 構成メンバー：(五十音順)
- 飯塚 悦功 東京大学名誉教授
 大江 和彦 東京大学医学系研究科医療情報経済学分野教授
 金子 郁容 慶應義塾大学SFC研究所主席所員
 菊地 眞 (公財)医療機器センター理事長
 喜連川 優 国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授
 楠岡 英雄 (独)国立病院機構理事長
 近藤 達也 (独)医薬品医療機器総合機構理事長
 堺 常雄 日本病院会会長
 神成 淳司 慶應義塾大学環境情報学部兼医学部准教授
 末松 誠 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)理事長
 田中 紘一 (一社)国際フロンティアメディカルサポート理事
 中釜 斉 国立研究開発法人国立がん研究センター理事長
 永井 良三 自治医科大学長
 樋口 範雄 東京大学大学院法学政治学研究科教授
 福井 次矢 聖路加国際大学学長
 堀 憲郎 日本歯科医師会会長
 松本 純夫 (独)国立病院機構東京医療センター名誉院長
 矢作 尚久 東京大学大学院工学系研究科
 品質・医療社会システム工学寄付講座主幹研究員
 山崎 學 日本精神科病院協会会長
 山本 修一 国立大学附属病院長会議常置委員長
 山本 信夫 日本薬剤師会会長
 山本 隆一 (一財)医療情報システム開発センター理事長
 横倉 義武 日本医師会会長
 吉原 博幸 京都大学名誉教授・宮崎大学名誉教授(特別教授)
- 関係府省：
 内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)
 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室長代理(副政府CIO)
 総務省政策統括官(情報通信担当)
 文部科学省研究振興局長
 厚生労働省大臣官房技術総括審議官
 厚生労働省保険局長
 厚生労働省政策統括官(統計・情報政策担当)
 農林水産省食料産業局長
 経済産業省商務情報政策局長
 財務省主計局(オブザーバ)
 (一社)MEJ(オブザーバ)

医療情報取扱制度調整ワーキンググループ 構成員

- 構成員
- 飯塚 悦功 東京大学名誉教授
 石川 広己 日本医師会常任理事
 岩田 太 上智大学法学部教授
 宇賀 克也 東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授
 大江 和彦 東京大学医学系研究科医療情報経済学分野教授
 金子 郁容 慶應義塾大学SFC研究所主席所員
 川上 浩司 京都大学大学院医学研究科教授
 児玉 安司 新星総合法律事務所弁護士
 佐伯 仁志 東京大学大学院法学政治学研究科教授
 宍戸 常寿 東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授
 樋口 範雄 東京大学大学院法学政治学研究科教授
 松本 純夫 国立病院機構東京医療センター名誉院長
 康永 秀生 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学教授
 矢作 尚久 東京大学大学院工学系研究科品質・医療社会システム工学寄付講座主幹研究員
 山口 いつ子 東京大学大学院情報学環教授
 吉原 博幸 京都大学名誉教授・宮崎大学名誉教授(特別教授)
 渡邊 大記 日本薬剤師会常務理事
- オブザーバー
 日本医療研究開発機構
 医薬品医療機器総合機構
 日本製薬工業協会
 日本CRO協会
- 関係府省
 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室
 厚生労働省大臣官房厚生科学課
 厚生労働省政策統括官付情報化担当参事官室
 総務省情報流通行政局情報流通高度化推進室

医療情報匿名加工・提供機関(仮称)のセキュリティ等に関する検討サブワーキンググループ 構成員

- 構成員
- 宍戸 常寿 東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授
 菊池 浩明 明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科教授
 高倉 弘喜 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授
 森 亮二 英知法律事務所弁護士
- オブザーバー
 上野智明 日本医師会ORCA管理機構(株)代表取締役社長
 荻原秀幸 (一社)保健医療福祉情報システム工業会セキュリティ委員長
 矢野一博 日本医師会総合政策研究機構主任研究員
 山本隆一 (一財)医療情報システム開発センター理事長
 吉原博幸 京都大学名誉教授・宮崎大学名誉教授(特別教授)
- 関係府省
 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室
 厚生労働省政策統括官付情報化担当参事官室

次世代医療ICT基盤協議会 (医療≡医療・介護・健康)

問題意識

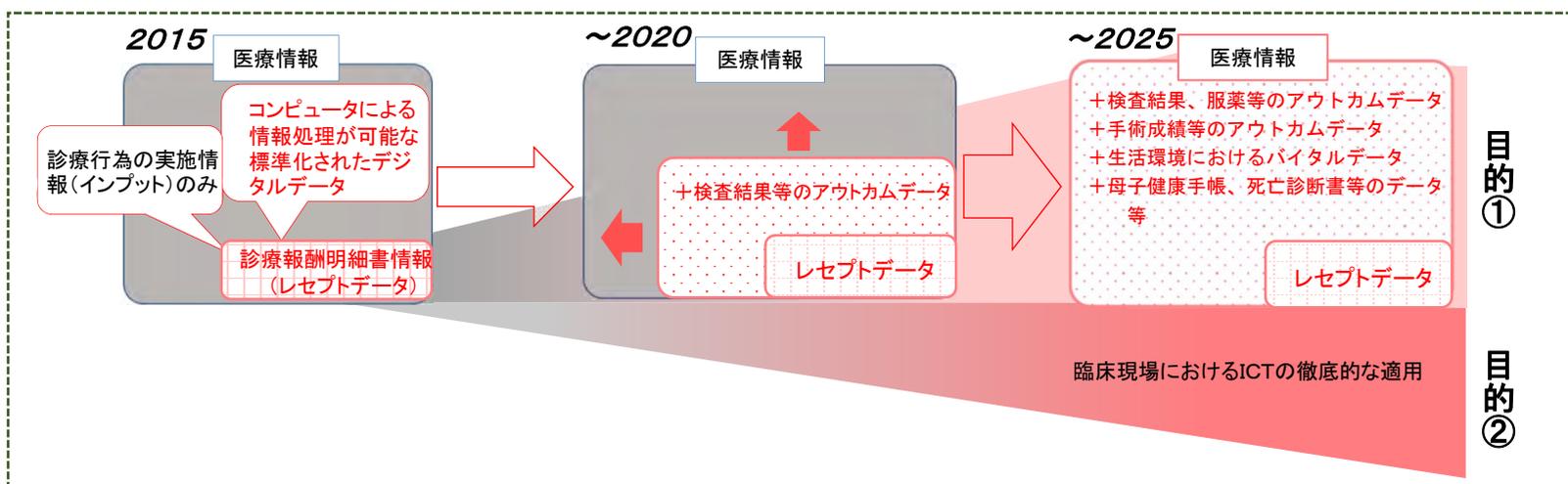
- 医療分野の高度化と効率化の両立による社会保障給付費の適正化は喫緊の課題。同時に世界最先端の臨床研究基盤を構築し、新しい医療技術・医薬品等を国内外の市場に展開する成長戦略的視点も重要。これらの両立には、臨床現場の徹底的かつ戦略的なデジタル化とともに、生成デジタルデータの戦略的利活用が不可欠。
- 現在、全国規模で利活用が可能な標準化されたデジタルデータは、診療行為の実施情報(インプット)である診療報酬明細書(レセプト)データが基本。診療行為の実施結果(アウトカム)に関する標準化されたデジタルデータを利活用することは、世界的にも重要な課題。(アウトカム=検査結果、服薬情報等)

目的

- ①【医療ICT基盤の構築】 アウトカムを含む標準化されたデジタルデータ(以下データ)の収集と利活用を円滑に行う全国規模の仕組みの構築。
- ②【次世代医療ICT化推進】 臨床におけるICTの徹底的な適用による高度で効率的な次世代医療の実現と国際標準の獲得。

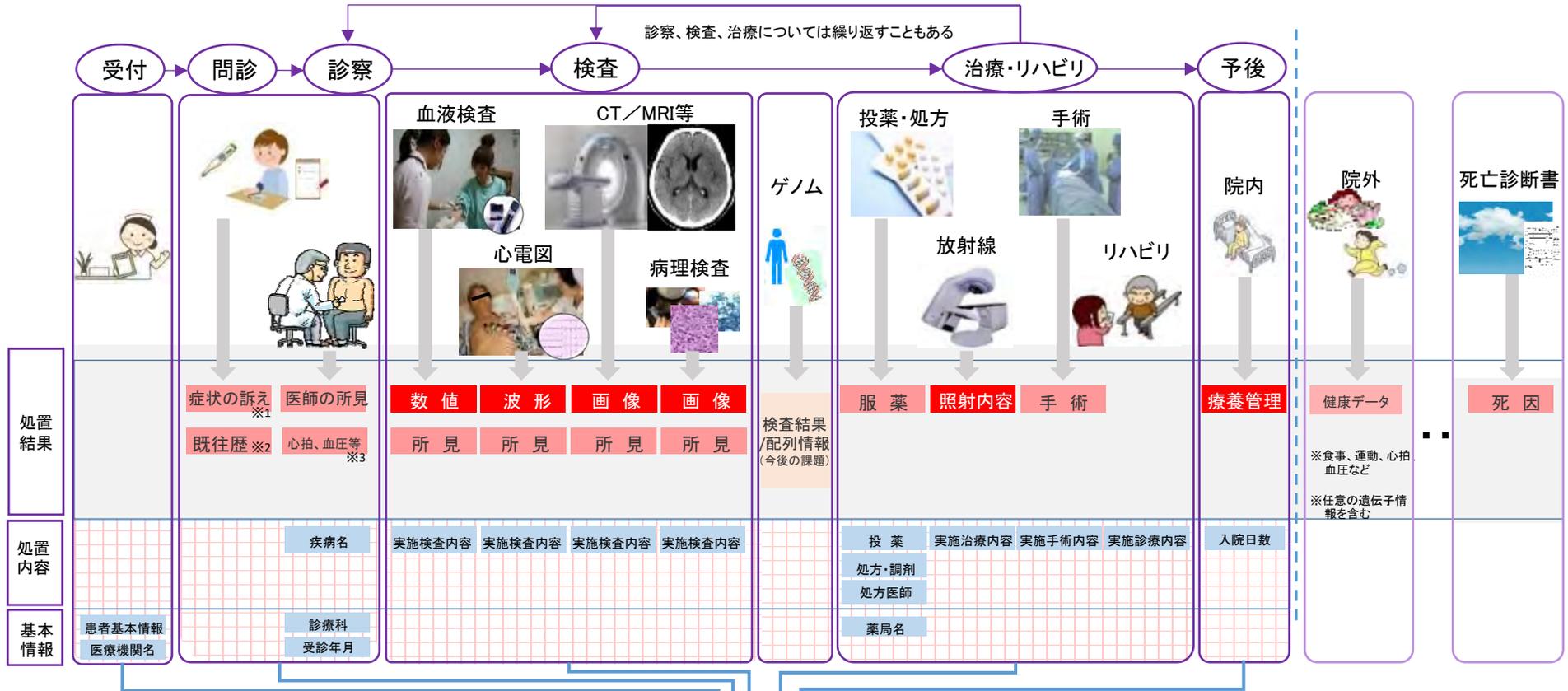
効果

- 世界最先端の医療行政・医療サービスの実現。医療の状況の正確で精密な把握や遠隔医療による医療資源の偏在の克服等。
- 世界最先端の臨床研究基盤の実現。(独)日本医療研究開発機構と車の両輪で新しい医療技術・医薬品・医療機器の開発が加速。
 - 【医療行政・医療サービス】
 - 医療資源の偏在(時間・距離)を克服した全国均一の高度で質の高い診療の実現
 - 科学的な根拠に基づく最適な治療の保険収載
 - 疾病の発生に即応した先制的な行政
 - 【臨床研究／コホート研究】
 - 医薬品、再生医療 等、医療技術の開発促進(臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化効率化、信頼性向上)
 - 効果的な治療方法の発見や科学的選定。個別化医療の実現。科学的根拠のあるヘルスケアサービスの振興
 - 【新技術／新産業創出】
 - 個人のヘルスケアデータを管理・運営するサービス等の新産業創出／新しい医療技術や科学的発見



医療情報収集の現状と課題

- 診療報酬明細書情報(レセプト:検査項目、投薬内容、手術処置の種類等(下記の青囲み部分))は一元的に集約されるなど利用が進んでいる。
- 問診内容、検査結果、治療予後等の収集や利活用が課題。病院や診療所を跨がる情報の収集も重要課題。



	デジタル	標準化
青	○	○
赤	○	△
ピンク	△	×

- ※1 症状の訴え
頭痛、めまい、肩こり等の患者の自覚症状 等
- ※2 既往歴
これまでにかかった病気、手術歴、輸血歴、アレルギーの有無 等
- ※3 心拍、血圧等
心拍、血圧、体温、呼吸数 等
- ※4 実施した診療の内容
検査、処置、投薬、手術、リハビリ、放射線治療、在宅 等

医事会計システム

診療報酬明細書 (レセプト)

- 患者の基本情報
- 受診医療機関名
- 診療科
- 処方医師名、薬局
- 診断された疾病名
- その月の入院日数、外来受診回数
- 実施した診療内容 ※4
- その月の請求点数

代理機関(仮称)制度のイメージ

○個人の権利利益の保護に配慮しつつ、医療等情報を安心して円滑に利活用することができる仕組みを整備し、医療の質の向上や新薬の開発等の実現に寄与する。

【イメージ図】

